

<今日の説教のポイント ルカによる福音書6章37-42節>

神の国(6:20)を望みつつ生きる信仰者に理解できる恵み溢れる教え。

1 (37-38) 誰から受ける裁きを考えるかがポイント。神の裁き。

「人を裁くな」(37)。崇高さに驚く教えだが、実現不可能な教えだと思われかもしれませんが。しかしそれは続く、「**そうすれば、あなたがたも裁かれることがない**」で考えられている裁きが神様の裁きであることを知ると変わって来ると思います。つまり、「人から裁かれないために、あなたも人を裁くな」という教えではないのです。イエス様は、「神様は私たちの言動を全て見ておられ、来るべき日に、私たちは皆、神様の前で裁かれる」ことを告げているからです(マタイ25:31以下)。

2 (41-42) しかし、万人が納得できる他人を裁けない理由もあり。

しかし、イエス様は41-42節では、万人が納得する他人を裁けない理由も述べておられます。「あなたに人を裁く資格があるか」ということです。イエス様は罪を犯した女を責めた人々にもそのことを問われ、人々もそれに納得して女を責めるのをやめました(ヨハネ8:1以下)。

3 (37-38) 裁かれると共に、赦しにあふれた神様を見つめる。

1と2から導き出される結論は、私たちには救いがない、つまりいずれ皆神様に裁かれるということでしょうか？ そうではありません。37-38節でイエス様が言われていることの大事な点は、裁かれる神様は赦しにあふれた神様でもあるということです。私たちはそのことを、神様がお与え下さったイエス様(特にその十字架の死)を通して知らされたのです。この神様の破格の恵みを知ったとき、私たちはその神様の求められることに精一杯お応えして生きて行こうとしようし、神様はまたそれを受け入れて下さる方なのです。「**赦しなさい。そうすれば、あなたがたも赦される**」(37)は私たちが実際に取り組むことを求めておられる主の御言葉です(「主の祈り」に、これに応える私たちの側からの表現あり)。私たちが為せるかどうかではなく、主に従い行く私たちに働いて下さる聖霊なる神様が為して下さると信じて歩むのが信仰者です。

4 (39-40) 主イエスに倣って生きることに励む。それが信仰者。

神様は主イエスを送り給い、この方を師として生きる道を示して下さいました。だから主イエスに倣って生きる。単純明快な道です！